

## スケートボード専用公園の整備で、 オリンピック選手育成を



岡田 りょうへい 議員

人口減少・少子高齢化の進行する地方において、交流人口の増加や地域産業の活性化を図る手法として、スポーツを地域資源とし、活用することに期待が寄せられている。思い出してほしい。32年前の伊野商業高校の甲子園出場、そして優勝のあの興奮を。この「スポーツの力」に着目する。そこで当町においては、スポーツを通じた地域活性化策として、町主体での「スケートボード競技のオリンピック選手育成」をしてはどうか。

無茶を言っているように聞こえるかもしれない。だが全国的に少ない、初心者から超上級者までが練習できる設備の整ったスケートパーク（スケートボード専用公園）ができれば、幼少期から十数年をかけた選手育成が可能となり、当町からでもオリンピックに出場することが実現可能となる。

今回の場合のスケートパークの整備というのは、単に遊び場を作ってほしいのではない。施設整備には多額の費用がかかる。いの町のような小さな自治体で、競技人口から考えて単に遊び場として整備するようなものではない。そこで、地域活性化まで望める、町民全体が夢の持てる、オリンピック選手育成のための、ワールドクラスのスケートパーク整備をしないか。そこに元氣いっぱいの子どもたちが集まる。



スケートボード教室の様子



難しいことを考えなくても、それだけで地域は元気になる。

スポーツは若者を引き寄せ、町に活気をもたせ、貴重な施策になると考える。しかし現在、町近隣には本格的スケートパークがなく、競技をやめる子どもも多い。

求められるのは、子ども

が興味のあるスポーツに合い、トレーニングできる環境を整えることだ。スポーツを通して、子どもたちに夢を持たせる、町全体としても夢の持てる施策と考え提案する。

### 池田町長

東京への出張のときに

「いの町です」と言うと、「あの甲子園で優勝した伊野商業高校の町ですね」と言われ、スポーツの力は非常に大きいと実感している。

スケートボードは、2020年の東京からオリンピック正式種目となり、今後若者を中心にさらに人気が高まっていくことに期待がされている。しかしスケートボード専用公園は、現在県内でも限られた場所にしか整備されていない。

もし、オリンピックに通用する選手がいの町から誕生すれば、大変素晴らしい夢がある。子どもたちが、興味のあるスポーツに出会うことは、将来に向けた選択肢・可能性や、夢を広げる。

スケートボードの選手育成に関して、どのような方針があるのか競技団体を含め各方面から様々な意見を頂きながら、町のできることを探り、スケートボードがさらに認知され競技人口が増え、また交流人口も増えるような取り組みを検討したい。



技の難易度で得点を競います

